

# 旧村川別荘だより

123



平成29年6月30日発行  
 旧村川別荘市民ガイド事務局  
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課  
 歴史文化財担当：木村、田中、手嶋  
 〒270-1166  
 我孫子市我孫子 1684 番地  
 TEL:04-7185-1583 (直通)  
 E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

## 市民ガイド月例会が開催されました

6月1日(木)に月例会が開催されました。お天気の良い日が続いていましたが、いよいよ梅雨にも入り、雨も多い季節となりました。みなさまいかがお過ごしでしょうか。早いもので、21日(水)には夏至を迎えました。当日はあいにくの雨でしたが、また1つずつ季節が進むのを感じますね。



## 旧井上家住宅工事進捗状況について

今回は、昨年からの二番土蔵の保存整備工事真っ最中の旧井上家住宅の現在の様子について、スライドを交えながら進捗状況をお伝えしました。二番土蔵では、5月13日(土)に土壁塗りの体験イベントも行き、工事現場説明会も実施しました。そのため、土壁塗りについて、左官職人の歴史にも触れてみました。

\* \* \* \* \*

### ◆左官とは？

古い記録によると「可部奴利」<sup>かぶぬり</sup>「土巧」<sup>つちのたくみ</sup>「泥工」「石灰工」「白壁師」「壁大工」「壁塗り」などの呼称が使用されていたそうです。「左官」という言葉がはっきりと古文書に残されたのが、慶長10年(16世紀末)だとされ、続いて17世紀初頭の記録に「さくあん」という記事が登場します。このことから、おそらく、江戸初期にはまだ「左官」をはじめ、他の名称「壁塗」などが混用されていたと考えられます。その後段々と「左官」が主体となり、「壁塗り」という言葉は使われなくなってきます。京都の左官協同組合蔵の古文書では慶長、元和の年号があるものは「壁塗り仲ヶ間」と書かれ、左官の文字が使用されるのは元禄からです。



“左官”という言葉の一つとっても、脈々と受け継がれてきた古い歴史があるのがわかりますね。

さて、旧井上家住宅の工事の話に戻ります。以前の工事のことから振り返ってみたいと思います。

### ●現在までの流れ

27年度に表門・裏門・外塀の保存整備工事を行いました。28～30年度には二番土蔵の保存整備工事を行うことになり、現在は工事進行中です。

#### 【1】平成28年度の工事内容

①蔵より一回り大きな覆い屋を作り、蔵を囲います。



①

②記録しながら瓦を降ろし、部材の修理あとを調査して、解体していきます。使える瓦や部材、壁土はできるだけ再利用します。

土壁は藁と土を足して半年間ほど、寝かせておきます。



②

③沈下を起こしていた礎石を外し、地盤強化を行います。



④礎石を水平に並べ直し、柱を建て、木で屋根の下地を作ります。木は腐った箇所を取り除き、できるだけ元の部材を使用します。



【2】

平成29年度の工事内容  
⑤柱の間に竹を組み入れ、藁縄で固定します。

このことを  
竹(たけ)木(こ)舞(まい)  
といいます。

写真参照 →→→



⑥竹木舞に、寝かせておいた土を押し込み「荒壁付け」をします。



上記写真は5月13日に行われた土壁塗りの体験の様子

⑦荒壁の上に中仕上げを6工程施します。

⑧屋根瓦を葺き直します。(再利用+新たに焼き直した物)そして完成へ…！！

旧井上家住宅はまだまだ発展途上です。これからも様々なイベントを通じてその様子をお伝えしていきますのでお楽しみに☆(^\_)/

**葛飾北斎とその時代について**

**●我孫子市民文化祭 60 回記念事業**

この度「特別展 葛飾北斎とその時代」という展示会を市民プラザで行います！葛飾北斎を中心とした浮世絵師たちの肉筆・版画類約50点を展示します。

期間：7月15日(土)～7月31日(月)

場所：市民プラザ 午前10時～午後5時 (無料)

また、特別講演も行います！

\*「葛飾北斎とその時代」

講師：安村敏信氏(国際浮世絵学会常任理事)

日程：7月15日(土) 午後1時半～午後3時

場所：南近隣センター(けやきプラザ9Fホール)

※当日正午より先着順約80名に整理券を配布します※

**連絡・お知らせなど**

**●発掘された日本列島展 2017**

・先月もご紹介しました白山所在の“根戸船戸遺跡1号墳”の出土遺物が、江戸東京博物館で千葉県代表遺物として紹介されています。展示は7月23日(日)までとなります！

**次回の月例会は・・・**

次回は平成29年7月1日(土)9時30分から旧村川別荘新館で行います！！(\*\_\*)